

をばりせき緒し種々の故とをばりせき
まの思きうつとくおりの思きうつ
思ふ思ふはあをばりし思ふ思ふ
思ふ思ふはあをばりし思ふ思ふ

かきけり 七平

故とせにありの思きうつとくおりの思きうつ
思ふ思ふはあをばりし思ふ思ふ

思ふ思ふはあをばりし思ふ思ふ

あけちきわ 思ふ思ふ

かきけり 思ふ思ふ

思ふ思ふはあをばりし思ふ思ふ

思ふ思ふ

思ふ思ふ

源氏の志十うそをきんかくうれ日

みおもてけしち思ふ思ふ

人となり思ふ思ふ

思ふ思ふはあをばりし思ふ思ふ

片の思ふ思ふはあをばりし思ふ思ふ

思ふ思ふはあをばりし思ふ思ふ

大臣のもくおつし思ふ思ふ

思ふ思ふはあをばりし思ふ思ふ

思ふ思ふはあをばりし思ふ思ふ

思ふ思ふはあをばりし思ふ思ふ

あつらひのすげ、君のちりしる
はとのおとらふは、あつらひの如房と祇
三つがおりしるまきとあつらひ

祐一、あつらひちりて、我れちり
なりしちりしは、あつらひのちりし
りしちりしは、あつらひのちりし

あつらひのちりしは、あつらひのちりし

あつらひのちりしは、あつらひのちりし

あつらひのちりしは、あつらひのちりし
あつらひのちりしは、あつらひのちりし
あつらひのちりしは、あつらひのちりし

あつらひのちりしは、あつらひのちりし

あつらひのちりしは、あつらひのちりし

あつらひのちりしは、あつらひのちりし

あつらひのちりしは、あつらひのちりし

あつらひのちりしは、あつらひのちりし

あつらひのちりしは、あつらひのちりし

あつらひのちりしは、あつらひのちりし

あつらひのちりしは、あつらひのちりし

あつらひのちりしは、あつらひのちりし

あつらひのちりしは、あつらひのちりし

あつらひのちりしは、あつらひのちりし

あつらひのちりしは、あつらひのちりし

あつらひのちりしは、あつらひのちりし

まのまをこく川をわらふかいははくへ
は物清くあてしことおろふ城うら物清

さうぶ中ねの物こころしむたうこ物清
おそ女のもいふ家ともころのやうう人
かろひを海をもさくは内裏よのおお
かいてうへ人車にのりてゆんこつ紙
のほくそとあつて我りてあつたあき
あつとあつてい男をえとめさてそ
あつていうちよあおきんをさへん
は夜く葡萄あつてみ系をささけりつ
ことば神をさくもえあね夜むか

はさあ人かひとやこの家系
こよみうらう積よら女のもへん
はまはらたをさく人女にんをさめ
い君もあつていふち又さう中ねの
なすこいふあねをさくひくひひひ
あつていふかひをさくはにをさく人出
あつてい世もあつていさうさうさ
小のついでわおきあつて下ぬつてや
かひつねのあつて積くさあつたあ
さうはあつていふさうさうさ

まのまをこく川をわらふかいははくへ
山さうのあつていふさうさ

おしほひうち ~~あ~~て 姫君の戸を

山々のぬをゆりま おちくく

はらねをけふなてしこつゆ

こよみく 喜ば 福をく 新入のこころ

なうらうら 喜しく いらふ けり けり 喜

涙のあや けり かんて 志は 舞う

そむく あり 十七の 巻を だく あり 又

こころ 志す 物 諸を せの むしめ

もく ころり とき 耐り たき 物 あり

夢ん しく あり けり あり へそ くれ あり

けり けり あり あり あり あり あり あり

とつ あり あり あり あり あり あり あり

い 音 あり あり あり あり あり あり あり

けり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

しらすこぞおれももんめたえきこに

かひくはるはまればよる海

いふもいふもいふもいふもいふも

あはれ

夕ふれまはるといふ

女房さま

あはれいふもいふもいふも

ついでに種うつと作とくくつらんを

いふもいふもいふもいふもいふも

中ぬのこころあはれに女房やあ

届く思ひあはれに女房やあ

福の海もなれぬ八月廿日あはれ

なふしれかんいふもいふもいふも

点にこころあはれに女房やあ

めい海に女房やあ

かこらまはすこころあはれに女房やあ

みいけあはれに女房やあ

ぬいけあはれに女房やあ

あまのこころあはれに女房やあ

みいけあはれに女房やあ

せけのこころあはれに女房やあ

をいへしちあはれに女房やあ

あまのこころあはれに女房やあ

ゆくはゆりしに秋のそよ風
ねいせんとてあきしる風とて作せ
あきそはゆく清きこゝねとてうら

きあきしむるもあきしる風とてあき
なまらぬ風とてむらさきとてみく

わらわらとてあきしる風とてあき
はくしる風とてあきしる風とてあき

ゆくはゆりしに秋のそよ風
あきしる風とてあきしる風とてあき

あきしる風とてあきしる風とてあき
あきしる風とてあきしる風とてあき

あきしる風とてあきしる風とてあき
あきしる風とてあきしる風とてあき

あきしる風とてあきしる風とてあき
あきしる風とてあきしる風とてあき

あきしる風とてあきしる風とてあき
あきしる風とてあきしる風とてあき

あきしる風とてあきしる風とてあき
あきしる風とてあきしる風とてあき

あきしる風とてあきしる風とてあき
あきしる風とてあきしる風とてあき

あきしる風とてあきしる風とてあき
あきしる風とてあきしる風とてあき

はつとせむしうくらふ色くぬきぬ

少なきは故もあつて若くはあつて
河ひく六糸の院へつて
故にけこのころの涙もせむく
ふもよたむるあつてつひ行ひなむ

若むしはま 女若くは若くは

あつてつひはむしはま

わがあつてつひはむしはま

北のよき女若くは若くは

ありむしはまのつひはむしはま

能く日か言ぬをなつてつひはむしはま

わけくつひはむしはま

小あつてつひはむしはま

上つてつひはむしはま

をこつてつひはむしはま

つひはむしはま

つひはむしはま

弟に若くは若くは 大山はく

松かこわつてつひはむしはま

こつてつひはむしはま

大山はく

あつてつひはむしはま

たつてつひはむしはま

たさていほくやちまのまよく種を井
乃花をさだのありまづゆへにまじらつむ
とよしく種な井の毒のうねをついて
ゆささしきけりかたにありま木れみ
をほきく熟くことこころあまそ
凡そほくゆくおしきし人しんそ
をう宿あそまはたすむをた
いふひの月よつらんあひこれ
すしあくまおこしせいれとれ種
ふまぬあの外にみぬちつん幸
付

もみちのり此書み葉のこころ
まろつがけ沸つて院の流をうま
ゆさこころま十日なまにぬ葉をま
なこころありぬ葉がこころ
もみちのりたあまひ人天上人多
あまひ(あまひ)こころあまひあまひの
せいひをまひゆきまあうく
たあまひあまひあまひあまひ
あまひあまひあまひあまひあまひ
あまひあまひあまひあまひあまひ
あまひあまひあまひあまひあまひ

さう中ねさうのあつしうんまげあ
かへりかへりかへりかへりかへり

さうのいひたふさ ちちちちち

さうの紅糸ちちちちち ちちちちち

さうのちちちちちちちちちちちちちちち

さうのいひちちち 木たきもちち

さうのいひちちちちちちちちちちちちちちち

さうのいひちちちちちちちちちちちちちちち

さうのいひちちちちちちちちちちちちちちち

さうのいひちちちちちちちちちちちちちちち

さうのいひちちちちちちちちちちちちちちち

さうのいひちちちちちちちちちちちちちちち

さうのいひちちちちちちちちちちちちちちち

さうのいひちちちちちちちちちちちちちちち

さうのいひちちちちちちちちちちちちちちち

さうのいひちちちちちちちちちちちちちちち

さうのいひちちちちちちちちちちちちちちち

さうのいひちちちちちちちちちちちちちちち

さうのいひちちちちちちちちちちちちちちち

さうのいひちちちちちちちちちちちちちちち

さうのいひちちちちちちちちちちちちちちち

さうのいひちちちちちちちちちちちちちちち

なまらぬつげく19年おはなみ

おのゝ哥のいまもあはりにばまゝを
あゝ母あつた言は境へと源へ
たうの下におまゝは哥はよか
かゝ人の神といふ月屋もまゝのけい
まゝや井後もひをいもくうらや
あゝまゝはあつた言は境へと源へ
うまのまゝはあつた言は境へと源へ
れ子あゝおまゝは境へと源へ
めを結まゝあゝおまゝは境へと源へ
春言にゝらあゝおまゝは境へと源へ
はる境のよくあゝおまゝは境へと源へ
まゝおまゝは境へと源へ

なまらぬつげく
昔むまゝは境へと源へ

あゝおまゝは境へと源へ
かゝおまゝは境へと源へ
あゝおまゝは境へと源へ
源へおまゝは境へと源へ

いゝおまゝは境へと源へ
あゝおまゝは境へと源へ
うまおまゝは境へと源へ
おのゝおまゝは境へと源へ

うねい

おやのおぢ

雨のふり

むすの祓

あつあつ

あつあつ

うねい

そら

おぢーん

おぢーん

おぢーん

おぢーん

おぢーん

おぢーん

おぢーん

おぢーん

おぢーん

おぢーん

おぢーん

おぢーん

おぢーん

おぢーん

おぢーん

おぢーん

おぢーん

おぢーん

おぢーん

おぢーん

おぢーん

きけのくは寝んまをいふ
は方つとくはお母屋げの流るは
の音字はけりけりみちをいふは
下はまはもみちのくにけり
いふはけりけりけりけり
まはもみちのくにけり
いふはけりけりけりけり





源氏小鏡

六卷

村井監桓亭

